

「ちばエコ農産物」栽培のために！ (品目別栽培カード 32)



キャベツ・冬どり栽培

千葉県農林水産部

1 栽培基準

キャベツの「ちばエコ農産物」栽培基準は、収穫時期ごとに4～6月収穫の春どり栽培、10～11月収穫の秋どり栽培、12～3月収穫の冬どり栽培に分けられています。

冬どり栽培の化学合成農薬の使用成分回数と化学肥料使用量（窒素分量）は表1のとおりです。



▲収穫間近のキャベツ

表1 キャベツ・冬どり栽培の「ちばエコ農産物」栽培基準

(平成24年4月現在)

作型	上 限 量		堆肥目安量(kg/10a)			
	化学合成農薬 (使用成分×回数)	化学肥料使用量 (窒素成分kg/10a)	牛ふん	豚ふん	鶏ふん	土づくり 的堆肥
冬どり	8(6)	14	2,300	900	500	3,000

注) カッコ内は購入苗の場合

2 栽培基準達成のポイントと考え方

1 病虫害防除

「ちばエコ農産物」の栽培基準に適合した農薬防除例を表2に示します。

病虫害防除では、病虫害の発生状況を観察し、防除適期を判断することが重要です。冬どり栽培では、育苗から定植後の高温時期はネキリムシ類、ハイマダラノメイガ（シクイムシ類）、コナガ、オオタバコガ、ヨトウムシ類等、多くの害虫の活動期にあたります。また、生育中期以降、菌核病、黒腐病等の発生が懸念されます。

表2 キャベツ・冬どり栽培の「ちばエコ農産物」栽培基準に適合した農薬防除例

処理時期	主要作業	農薬名	10a当たり使用量 (希釈倍数等)	対象病虫害	備考
8月下旬	播種				
9月中旬		プレバゾンフロアブル5	苗地床1㎡当たり2L 500倍	コナガ、アオムシ	かん注
	定植	フォース粒剤	4 kg	ネキリムシ類	全面土壌混和
9月下旬		※Zボルドー	500倍	黒腐病、べと病 等	高温時を避ける
		ハチハチ乳剤	1,000～2,000倍	アブラムシ類、コナガ ハイマダラノメイガ 等	
10月上旬		セイビアーフロアブル20	1,000倍	株腐病、菌核病	
		※エスマルクDF	1,000～2,000倍	アオムシ、コナガ 等	
10月中旬	追肥	ロブラール水和剤	1,000倍	菌核病	発生に応じて
		プレオフロアブル	1,000倍	コナガ ハイマダラノメイガ オオタバコガ 等	
11月上旬		※Zボルドー	500倍	黒腐病、べと病 等	結球開始後に使用
		フェニックス顆粒水和剤	2,000～4,000倍	ウワバ類 コナガ ハスモンヨトウ 等	
12月以降	収穫				

注1) ※印は、「ちばエコ農産物」栽培基準における化学合成農薬に含めない農薬

2) アブラムシ類の発生がみられる場合、プレオフロアブルを※スピノエース顆粒水和剤に変更し、アブラムシ類対策としてモスピラン顆粒水溶剤を散布する

3) 根こぶ病発生ほ場では、上記にフロンサイド粉剤を追加する

A 育苗期、ほ場準備期 ～防虫網と殺虫剤のかん注～

●防虫網で害虫の侵入を防ぐ

育苗床を防虫網でトンネル状に被覆し、害虫の侵入を防ぎます。

●殺虫剤のかん注でチョウ目害虫を防除

定植3～5日前にプレバゾンフロアブル5を苗地床かん注して、生育前半に発生が多いチョウ目害虫を1剤で長期に防除します。

●作付け予定のほ場は雑草を生やさない

ネキリムシ類の対策は、耕種的な防除を含めて行います。ネキリムシ類は雑草を含む多くの植物を加害するため、作付けの1か月前から雑草等を生やさないようにします。

●根こぶ病は粉剤で防除

冬どり栽培の定植は、根こぶ病の発生が多い時期となります。発生が懸念されるほ場では、フロンサイド粉剤やネビジン粉剤等を土壌混和して予防に努めます。



▲プレバソンフロアブル5の苗地床かん注

B 外葉形成期 ～観察による害虫発生の把握と病害の予防散布による回避～

●殺虫剤は、観察に基づいた発生初期の散布

定植から生育初期は、害虫の活動が活発な時期に当たります。苗地床かん注の効果が薄れる定植2～3週間後からは、観察による害虫発生の把握に努めます。初期発生を確認してから農薬散布するという手法により、過剰な農薬の使用を防ぐことができます。

●菌核病を中心に病害対策は発生前の予防的な散布

菌核病は、冬どり栽培の収穫期が近づく11月頃から発生が多くなりますが、キャベツへの感染は気温が20℃を下回る10月から始まります。10月には菌核病の防除効果がある農薬を葉裏にまで達するように散布します。



▲菌核病のキャベツ

●「ちばエコ農産物」栽培基準における化学合成農薬に含めない農薬を活用

Zボルドー、スピノエース顆粒水和剤等の天然由来成分の農薬や、エスマルクDF、ゼンターリ顆粒水和剤等のBT剤といった「ちばエコ農産物」栽培基準において定められた化学合成農薬に含めない農薬を活用します。

C 結球開始から収穫期 ～収穫物への影響を考慮した適期防除～

●結球部への食害はしっかり防除

商品である結球部の食害は、減収の原因となります。結球開始にあわせ、フェニックス顆粒水和剤等の効果持続性が長い殺虫剤を散布して、主にチョウ目害虫を防除します。

●農薬の使用に当たっては、各薬剤の収穫前使用日数等を考慮

キャベツでは、例えば、リドミルゴールドMZ、ペンコゼブフロアブルは収穫30日前まで、ベルコート水和剤は収穫28日前までに使用します。ダコニール1000、ハチハチ乳剤、パダンSG水溶剤等も、収穫14日前までと比較的期間が長いので、注意が必要です。農薬を使用する前には、使用基準を必ず確認します。

2 施肥と土づくり

「ちばエコ農産物」栽培基準に適合した堆肥及び肥料の施用例を表3に示します。堆肥による土づくりに加えて、有機質肥料を含む肥料の施用により、「ちばエコ農産物」の栽培基準の達成が可能です。

なお、表3の施用例は主要農作物等施肥基準（平成21年、千葉県）の施肥量に準じていますが、前作の施肥等によって必要な施用量が異なりますので、各ほ場の施肥量は土壌診断に基づいて決めます。

また、登録名称内に「有機」等と記載された肥料でも、化学肥料由来の窒素を含んでいることが多いので、JAまたは肥料販売業者に問い合わせ、有機質由来と化学肥料由来の窒素の割合を把握しておくことが必要です。



▲ 適正な施肥によるキャベツの生育

表3 キャベツ・冬どり栽培の「ちばエコ農産物」栽培基準に適合した堆肥及び肥料の施用例

区分	製品名	保証成分量(%)			現物施用量 (kg/10a)	成分施用量(kg/10a)		
		窒素	りん酸	加里		窒素	りん酸	加里
堆肥	牛ふんもみから堆肥				2,300			
基肥	有機アグレット088	10(5)	8	8	180	18.0(9.0)	14.4	14.4
	苦土石灰				100			
追肥	野菜追肥専用 S842	18(18)	4	12	20	3.6(3.6)	0.8	2.4
総施用量						21.6(12.6)	15.2	16.8

注) ()内は、総窒素量のうち、化学肥料由来の窒素成分量

☆この「品目別栽培カード」に記載した農薬・肥料使用例は、平成23年度現地実証試験時点のものです。実際の農薬使用に際しては、ラベルの表示をよく確認するとともに、最新の農薬使用基準を守って使用してください。

なお、栽培基準は平成24年4月改訂後のものを記載しています。

- 著 作 千葉県農林水産部担い手支援課
千葉県農林総合研究センター
- 編集・発行 千葉県農林水産部安全農業推進課
- 発行年月日 平成25年1月

■内容についての問い合わせ先

千葉県農林総合研究センター
北総園芸研究所東総野菜研究室 TEL. 0479(57)4150



千葉県マスコットキャラクター チーバくん

CHIBAちば